

“木を知る” 体験型みやげづくりワークショップ

横浜の水源林の間伐材を使った サステナブルしめ縄づくり

POINT1: 宮大工が削り出した「かなぐす」を使ったしめ縄づくり

日本の正月飾りとして有名なしめ縄には、「神の占める場所」という意味があります。古くからの伝統と近代のサステナブルな考え方を掛け合わせ、本来は捨ててしまうかなぐすを使ってオリジナルに作り上げる、独創的なワークショップを体験して頂きます。

POINT2: 宮大工から、歴史的かつ持続可能な伝承技術について学ぶ

宮大工が受け継ぐ伝統の技術や知恵は、日常生活では知りえないものばかりです。日頃から神社仏閣の木造建築に携わる彼らの貴重な話を聴くことで、新しい発見があり、サステナビリティへの理解が深まることでしょう。

POINT3: カンナ削り体験や折り紙などのサブクエストも充実

宮大工の技術である「カンナ削り」を体験することもできます。カンナを使って木材の表面を削る過程で、彼らの技術の一端に触れることができます。また、日本伝統文化である「折り紙」で、しめ縄のデコレーションを作ります。折り紙もまた日本伝統の技術であり、歴史と創意工夫が詰まったコンテンツなのです。

POINT4: 多言語対応のガイディングにより海外からのMICE顧客にも対応

弊社独自のトレーニングを積んだ多言語対応のできるガイド（ファシリテーター・通訳案内士）がご案内致します。

日本には1400年以上前からカーボンニュートラルに資する建築技術を継承してきた歴史があります。その技術を受け継ぐのは、“宮大工”と呼ばれる建築技師です。2019年、ユネスコ無形文化遺産に登録されたほどの技術こそ、彼らが世界で最高峰の「木のプロフェッショナル」であることの証明です。しめ縄づくりや彼らの話を聴くことを通して、「木」のサステナブルな価値を感じることができるワークショップです。

